

2002年3期まで、公表された不良債権が増加し続けており、銀行は不良債権の存在と関係なく配当政策を維持していた。不良債権が顕著に減少した2003年3月以降の時期において、不良債権が有意に銀行配当に負の影響をするようになった。われわれの結果は、銀行業ガバナンスに対する規制のあり方の重要性を示唆する。

(Apr. 27, 2017)